

4 - 11 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動（1978年7月～1978年12月）

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (July, 1978 ~ December, 1978)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所・北陸微小地震観測所

京都大学理学部 阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and
Hokuriku Microearthquake Observatory,
Disaster Prevention Research Institute;
Abuyama Seismological Observatory,
Faculty of Science; Kyoto University

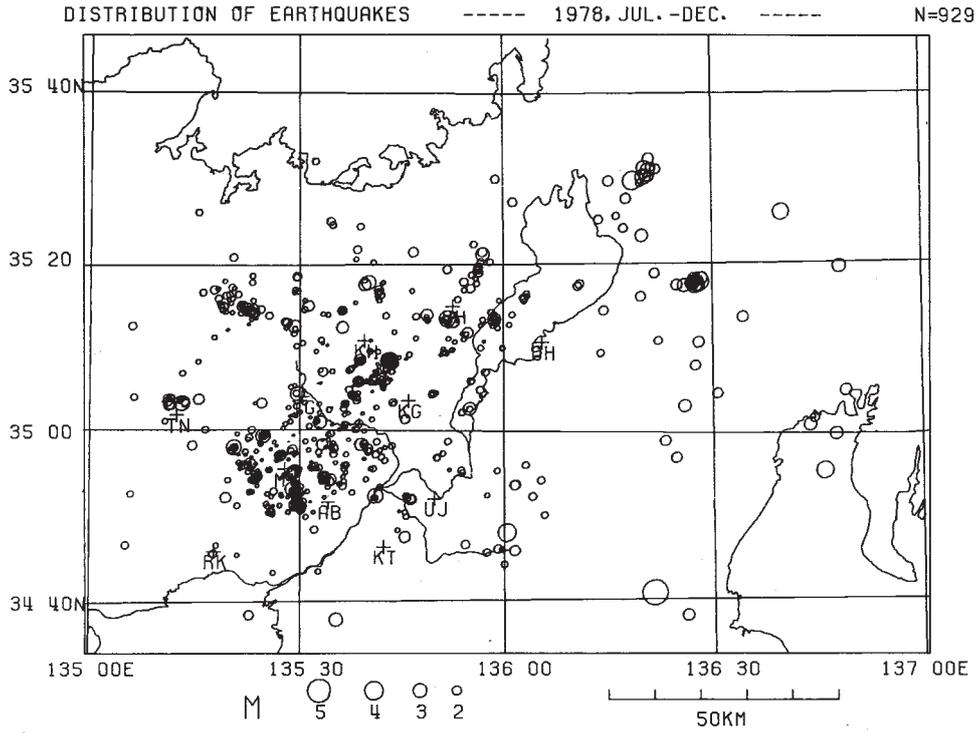
今回は、標記の地域における、1978年後半期（7月～12月）のサイスミシティについて報告する。表示方法その他については、本会報第18巻¹⁾を参照されたい。

1978年後半期のサイスミシティの特徴は以下の通りである。

1. この期間のサイスミシティは、3観測所のいずれの結果を見てもかなり高い。例えば、阿武山地震観測所の結果では、過去4回（1976年後半、1977年前半および後半、1978年前半）の地震数は、それぞれ、743、726、797、771であったが、今回は929個である。また全域にわたって、群発地震が多く分布しており、そのため図が黒っぽく見える。
2. 鳥取微小地震観測所の結果：前報で盛であった倉吉附近の活動はおさまり、米子附近の活動が目立つ。この地域では、このようにかたまって発生するのは珍しい。山崎断層南端部の空間的に分散した活動がある。
3. 阿武山地震観測所の結果：活動のパターンは前半期と同じであるが、活動度はより高く、且、分布が空間的により集中している。和知附近の活動、丹南（TN）附近、琵琶湖西部の花折断層沿いの活動などが目立つ。
4. 北陸微小地震観測所の結果：全般的な活動は前半期と同様であるが、御岳附近の群発、琵琶湖北東部の群発活動が盛であった。

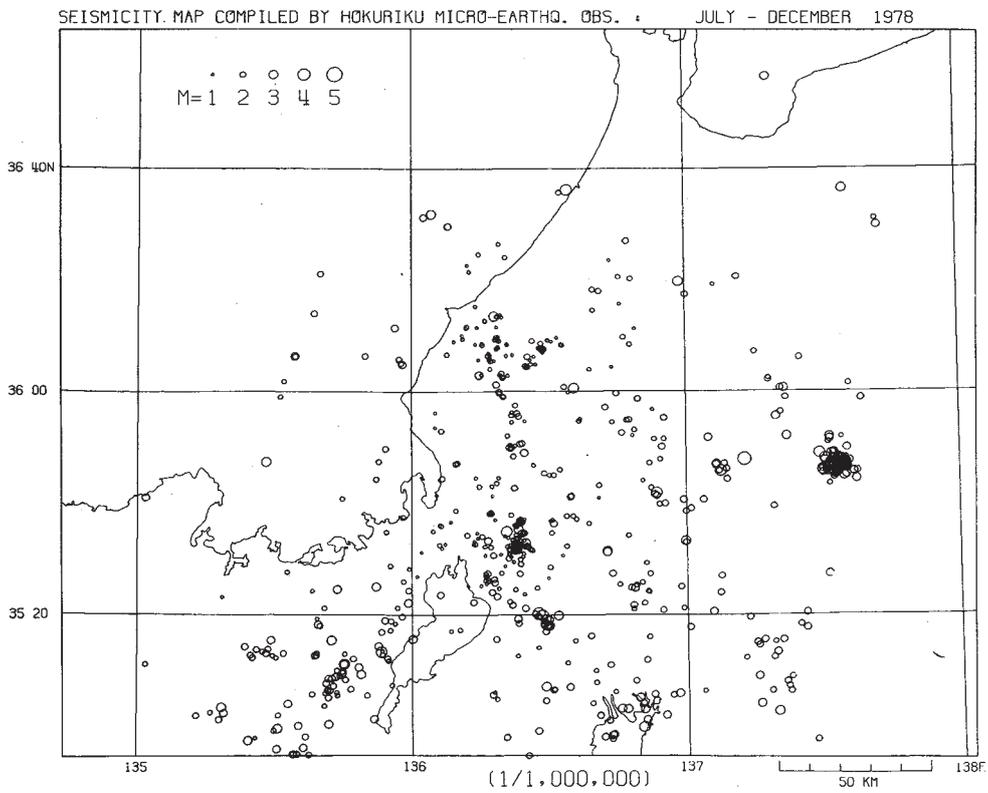
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所鳥取微小地震観測所・北陸微小地震観測所、理学部阿武山地震観測所：中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動（1976年7月～1976年12月）、連絡会報 18（1977）、104 - 106.



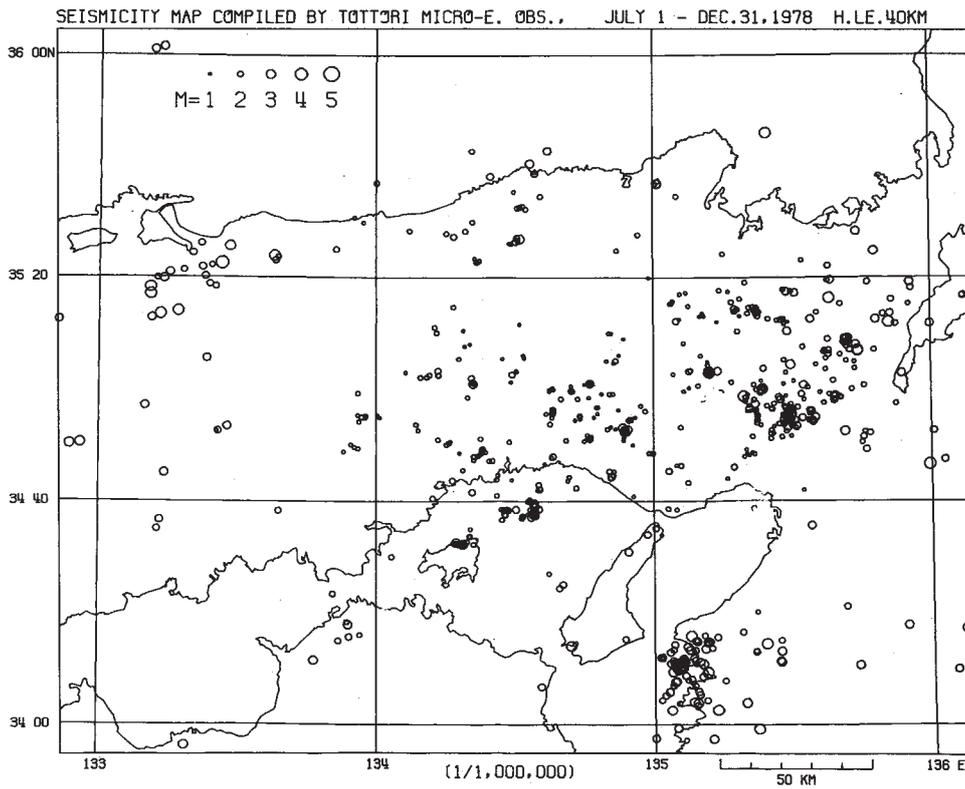
第1図 阿武山地震観測所による震央分布図

Fig. 1 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory.



第2図 北陸微小地震観測所による震央分布図

Fig. 2 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory.



第3図 鳥取微小地震観測所による震央分布図

Fig. 3 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory.